

令和 5 年度 大学塾 第 4 ステージ 開催講座 案内

北野大氏 環境問題を語る



日 時 : 2 月 12 日 (祝・日) 午後 2 時 ~ 3 時 30 分

会 場 : 足立区生涯学習センター 5 階 研修室 1

現在の環境問題は、かつての公害に代表された「産業型環境問題」から「都市型・生活型環境問題」に変化しています。この解決には私たちのライフスタイル、価値観の見直しが必要です。皆さんと一緒に考えて行きましょう。

講 師 : 北野 大(まさる) 氏 足立区在住
学校法人 秋草学園 理事長兼 短期大学学長
淑徳大学 名誉教授 (教育・環境問題)

フリーアナ松坂貴久子の アンチエイジング朗読



人生 100 年時代・・・健康で若々しく過ごすためにあなたは
何を実践していますか？

いつでもどこでも手軽にできる健康法は声を出すこと。
発声に気を配りながら音読することは、脳トレにもなり健康
維持に繋がります。更に姿勢や表情に気を配りながら文章を
立体的に表現していく朗読は、聞き手に思いを届ける工夫が
何よりのアンチエイジングに繋がるのです。

さあ！アナウンサー＆朗読家の講師と共に楽しく始めてみ
ませんか？！

講 師 : 松坂 貴久子 氏 フリーアナウンサー＆朗読家 元静岡第一テレビアナウンサー

日 時 : 2 月 7・14・21 日 (水曜日) 全 3 回 午後 2 時 ~ 4 時

会 場 : 足立区生涯学習センター (学びピア 21 内) 5 階 研修室 4

講義内容 : 第 1 回 声を出してみよう (音読・朗読の基本)

第 2 回 朗読を楽しみましょう (朗読を深める)

第 3 回 短い朗読をやってみよう (朗読ミニ発表会)

ポスト印象派を楽しむ (ゴッホ・ゴーギャン・セザンヌ)



11月8・15・22日(水)の3回にわたり生涯学習センター4階講堂において開催された。講師は前ブリヂストン美術館(現アーティゾン美術館)館長で実践女子大学名誉教授の島田紀夫氏。申込者は35名、受講者は33名、出席者は第1回29名・第2回28名・第3回29名で累計86名。

第1回は「炎の人 ゴッホ」。まずポスト印象派の説明があり、印象派の後にフランスを中心とした1880年代の画家たちの呼称で、印象派のようにグループ展を開いたりせず、様式的な共通性は希薄で、それぞれの画家の画風は異なっている。ゴッホ・ゴーギャン・セザンヌの3人が代表的

である。ゴッホは1853年オランダに生まれ、画廊の見習いや伝道師の仕事に就くがいずれも長続きせず、1886年に弟を頼ってパリに出て印象派の画家たちに出会い、ゴーギャンとは2ヶ月共同生活をしたが、「耳切り事件」で破綻した。タッチと色彩は内面的な感情を生々しく伝えており、「情熱的な画家」「狂気の天才」とのイメージから「炎の人」と言われる。主な作品は1886年～1890年に描かれ、ひまわり・小麦畑・糸杉を主なモチーフとした。また浮世絵の影響を強く受け作品に取り入れられている。1890年7月27日銃で自らを撃ち二日後に死亡した。紹介される主な作品「ジャガイモを食べる人々」「星月夜」「ひまわり」「自画像」「夜のカフェテラス」など。



第2回は「タヒチを愛した画家 ゴーギャン」。1848年パリで生まれ、クーデターを避けてペルーに行き、1855年にフランスにもどり船乗りとなる。1871年に株式仲買商に勤め、絵を習い始める。エミール・ベルナールと共にサンテティスム(総合主義)をとらえ、印象派の写実性を否定し、象徴主義を表明した。代表作「説教のあとの幻影」はこの時に制作された。1888年ゴッホとの共同生活は破綻した。1889年ブルターニュで若手グループを形成し、パリ万博で象徴主義のグループ展を開催した。1891年から2度タヒチに旅立ち、1903年タヒチで死亡。色彩の豊かさや筆致の

大胆さが特徴である。紹介された主な作品は、「我々はどこから来たのか」「タヒチの女」「黄色いキリスト」「マハナ・ノ・アトウア」など。

第3回は「近代美術の父 セザンヌ」(1839～1906)。父親は南仏エクス・アン・プロバンスの帽子製造業から銀行を設立して成功する。父は銀行を継がせようとするが、1861年親友のゾラのいるパリへ行き、自由画塾アカデミー・シュイスに通い、ピサロ、モネ、ギヨマンを知るが、自信を失いエクスにもどる。エクスとパリに交互に滞在するが、1869年モデルのオルタンス・フィケと生活を始める。1874年第1回印象派グループ展にピサロの助力で参加、1877年第3回グループ展にも参加するが酷評を受ける。その後はエクスにて制作を続ける。代表的な作品は静物画・人物画・風景画(サント・ヴィクトワール山など)である。1895年画商ヴォラールの個展で印象派に不満の若手に注目されるが、生前の評価は名声を得るには至らなかった。紹介された主な作品は「サント・ヴィクトワール山」「リンゴとオレンジのある静物」「肘掛け椅子に座るヴィクトール・ショケ」「大水浴図」など。



受講者の言葉・講師の方は大学で教えられ、その後、美術館の館長を歴任され、その知識と資料のすばらしさに圧倒されました。・作品の背景を知ることが出来たので、今度美術館に行くときに鑑賞の幅が広がります。・展覧会などで、素敵だなあとか、好きな絵だと思って見ていた絵の背景や、画家の人生が分かり、とても面白かったです。・先生の誠実な語り口も、ゆったりとした気持ちでスライドの絵を見ることが出来て良かったです。

(糸井史郎)

足立のあらかわ文化祭に参加（11月25・26日）

開催場所：学びピア 21 4階 講堂ロビー及びホール内・荒川河川敷 —過去現在の荒川を知り、未来へつなげる—

今年も荒川で活動している団体やその取り組みを知り、荒川の楽しみ方を見つけることで、未来の荒川のあり方について考えてもらう場となるよう開催されました。

- 荒川流域活動団体ブース では：流域活動団体によるPR・物づくり体験ブース、クラフトコーナー。
- 荒川今昔写真展では：「荒川の昔を伝える会」会員による荒川の写真展示、解説。
- 川のようにえんでは：河川敷で未就学児向け自然体験プログラム「川のようにえん」を実施。
- あらかわクラフトマルシェでは：参加しておみやげがあるブース・荒川の素材を使ったクラフト。
- あらかわ発見展では：荒川で見つけた・体験した荒川の自然や生きものの紹介や研究を展示。
- 「楽学の会」では：荒川流域活動団体ブースで併催して、楽学の会の紹介パネルやチラシ15周年記念誌講座実施報告書、講座の写真、講座のチラシ、楽学ニュース、などをホール内にて展示いたしました。訪れた方にはそれぞれの資料を基に詳しく説明を行いました。

荒川放水路通水100周年まであと300日余

荒川放水路は大正13年(1924)10月12日に通水を開始し令和6年(2024年)に通水100周年を迎えます。当会のブースに訪れた方には、「楽学の会」の紹介資料と併せて荒川放水路のリーフレットと記念バッジをお渡し致しました。これまで一度も決壊をすることなく、荒川下流域の生命と財産を守り続けてきた荒川放水路、来年は講座でもその歴史を紹介出来る様、所管と準備を進めております。（広報G 金子勝治）



NPO 法人「楽学の会」設立 20 周年記念事業

「楽学の会」は、平成8年2月足立区生涯学習館(綾瀬)主催の初めての「あだち区民大学『生涯学習ボランティア養成セミナー』」の受講終了者有志20名余によって、5月に任意グループとして結成。当区社会教育主事の7年に及ぶ支援の基に活動経験を重ね、区民主導の学習支援活動を継続させ、財産基盤の確立と区民から信頼される団体を目指して、平成15年4月東京都よりNPO法人格を取得、「学びの中から楽しさを見つけよう」を目指して「楽学の会」のネーミングが付けられました。

活動は、足立区・足立区教育委員会・「楽学の会」の3者共催により、行政の方針や施策に基づき区民のニーズを生かし、主に社会的・現代的課題を内容とする講座を企画・開催。常に、地域の学ぶ人々の役に立つと共に、学習を通して自己の成長、生きがい、楽しさを育む利他的余暇を実践する団体として、会員のスキル(経験、知識、技術)を活かし学習機会の提供を行ってきました。設立20周年を迎えるにあたり、会の運営・活動・事業の展望として、さらに活動を拡充させるための課題として活動参加者の定着・増加など、運営に対応できる基盤の確立が重要と考え、その節目の記念事業を開催することで、広く区民に事業目的を周知、会の健全維持に向けての会員獲得に積極的に取り組んでいます。

NPO 法人設立 20 周年記念誌の発行・特別講演会の開催

「楽学の会」の主幹事業である「あだち区民大学塾」は、16年度から区民を講師に、区民ボランティアが手づくりで企画運営、スタート時は4講座、17年度は10講座、18年度は15講座を開講、令和5年9月までに開催した講座は285講座、延べ受講者は26,093名となりました。講座の概要や運営を担ったスタッフが執筆した講義内容や感想の纏めは、毎年度「あだち区民大学塾講座実施報告書」として、区関係所管へ報告、生涯学習関連団体や顧問、講師、会員、に配布いたしております。また、会の20年の活動の歩みを「NPO 法人設立20周年記念誌」として発行致します。併せて日頃から当会事業へのご理解とご協力に対して感謝の意味を込め区民還元事業として、足立区在住の北野大氏をお招きして特別講演会を開催いたします。この間に会の事業運営に尽力いただいた会員諸氏にも改めて感謝申し上げます。

NPO 法人「楽学の会」設立20周年記念誌 編集長 金子勝治

みんなの広場

季節の花々を追って(続)

夏になると 蓮(はす)が咲きます。蓮は早朝と言いますが、写真撮るには光線の具合が良くなる 7時ころ蓮池に向かいます。中には朝露の演出でしょうか、霧吹きを持参する人もいます。

その次は**向日葵**(ひまわり)で、この時期には空に咲く花火も注目ですし、忙しいですね。近年は地球温暖化のためか、花の時期が早くなっています。梨・リンゴなどの果物もそうですが、花の時期も俳句の季語に対して 1か月近くも早まっています。

彼岸花=まんじゅしゃげは初秋です。盛りの時期が短く、出掛けたのに色が褪せていたこともあります。**コスモス**は都内にも大きなコスモス畑があります。浜離宮・都市農業公園・昭和記念公園などです。コスモスは青空が似合いますが、風が弱いことも必要です。花びらがとても薄いので風に吹かれて変形してしまうからです。

サルビアは、夏から秋までずーっと咲いていますので外の花がない時、狙います。

東京の紅葉は、**モミジ**を中心に 榲(けやき)・**桜**・**公孫樹**(いちょう)・**メタセコイア**などで、時期は11月末から12月初めです。特にモミジは12月10日過ぎです。もし紅葉を見に行つて「もう茶色の枯葉だね」と言つて帰つてはいけません。もし晴天ならば逆光側に回つて(北側から)見てください。真っ赤な色が見えるはずですよ。

シクラメンは冬から春にかけて咲きます。花屋さんの店先には色も形も変わったシクラメンが見られますが、写真に撮るのは街角で個人のお宅に咲いている鉢に植わっているものです。どこも見せ方に工夫があつて面白いですよ。(神戸 明)



11月 靖国神社 公孫樹



8月 東綾瀬公園 彼岸花



9月 上田市 コスモス



10月 王子 飛鳥山公園 サルビア



12月 北千住 街角のシクラメン

令和5年12月 運営委員会 報告・連絡

日時：令和5年12月1日（金）14：30～
場所：生涯学習センター：5階 研修室4

代表挨拶：報告および提案：糸井代表代行

- ・令和5年度の講座は「ポスト印象派を楽しむ」で8講座終了しました。「池波正太郎講座」、「健康講座」が講師の病気で中止となりましたが2月に「朗読講座」「北野大氏特別講演会」が入りましたので年間では予定通り13講座開催の予定です。
- ・今後の講座の企画としては池波正太郎、大沢氏の奈良の古道、三島由紀夫講座、島田氏の20世紀の絵画、平野氏の戦国時代講座、足立区文化財係の古代の足立、伝統工芸Ⅲ、倉本氏の文学講座、ホーリー講座、元NHKアナ、榊原氏のべらぼう等、年間計画は考えられると思います。

議 事

(1) 情報交換

- ・あだちNPOフェスティバル：11/19（日）：参加、エルソフィア、4名参加、楽学ニュース配布した。

(2) 月例会開催について

- ・11月16日（木）NPO法人設立20周年事業 準備会議；記念誌のレビュー実施。
- ・12月15日（金）テーマ1：1年を振り返る、テーマ2：情報交換・懇親会 日本海。
- ・1月15日（月・休）午前中：センターの防災訓練に参加（1月16日の日程変更）
- ・2月15日（木）足立区の文化財について 糸井さん講演。

(3) あだち区民大学塾： 講座企画会議：12/1（金）、1/5（金）、検討会議：12/15（金）、1/16（火）

- ・11月 ポスト印象派を楽しむ 島田紀夫講師 11/8、15、22（水）講堂 受講者33名
- ・12月 歌舞伎入門講座Ⅲ 金田栄一講師 12/6、20、27（水）研1 応募者38名
- ・1月大河「光る君へ」～平安の女流文学から学ぶ 榊原金市講師 1/14、21（日）応募締切12/26
- ・2月 フリーアナ松坂貴久子のアンチエイジング朗読 松坂貴久子講師 2/7、14、21（水）締切1/24

(4) NPO法人設立20周年記念事業

- ・12/1 第6回編集会議 記念誌の最終レビューを実施した。11/末編集完、12/月上旬 印刷会社へ出す。
- ・20周年誌の配布先の検討：足立区関連、会員・退会会員、大学塾講師、関連団体 計165部～170部
- ・NPO法人設立20周年記念特別講演会開催決定 令和6年2月12日（月・祝）14：00～15：30 研修室1
講師 北野 大氏（秋草学園理事長兼短期大学学長、足立区出身）「環境問題を考える」

次回 運営委員会1月5日（月） 14：30から（研4）

令和5年12月月例会 開催報告（12月15日）

12月の月例会は「今年を振り返る」テーマでフリートークを行いました。事務局福田さんが作成した今年の事業報告のレジュメがあり、一通り読み、説明を加えてもらいながら参加メンバーで確認をしました。区民大学塾では講座実績、講座分野、講師開拓、受講者数、応募受付のハガキとメール対応、受講料改定、チラシの情報スタンド利用など。他機関との関係では生涯学習支援課、生涯学習センターとの連携。広報活動では楽学ニュース、ホームページ、メルマガ、生学センター機関紙、足立朝日などへの広報展開。生涯学習関連団体との交流、ネットワークづくりなど。活動会員が減る中でも組織として頑張っている姿が確認できました。ただ、会員数が思うように増えず減っていく状況で今後どうしたらいいかの課題も見えてきました。省略や簡素化できる実務の改革、なるべく大勢で分担して作業を行うなど意見がでました。取り敢えず続けるために皆さんで工夫して協力し合いましょうと合意しました。

その後、場所を居酒屋に移して懇親会を行いました。参加者は9人と少ない人数でしたが、みんなで揃って飲むのは4年ぶり、時々こういうのがないとダメだよ～と 異口同音でした。数年前より食べるのも飲むのも目に見えて量が減りましたが、みなさん元気だけはあり話が弾んでいました。参加されたみなさんお疲れさまでした。

（ボランティア活動推進部）



生涯学習センター 講座情報

講座名：放送大学連携講座

生命は地球を出て行けるのか

あだち 100 年大学講座

日 時：2/4 (日) 午後 2 時～3 時 30 分

対 象：16 歳以上の方

会 場：5 階 研修室 1

受講料：500 円

定 員：60 人 (事前申込先着順)

講 師：最上 善広 氏 (放送大学特任教授、
放送大学東京足立学習センター所長)

内 容：生命は地球の環境のもとで出現し、進化してきた。環境への適応の過程は内部に記録され、その記憶に基づいて、生命は環境の変化に対応し幾多の困難を克服し、生き延びてきた。しかし、宇宙へ進出しようとしたら、その記憶が無価値になるかも知れない。地球の生命が地球外で繁栄できるのか。それとも、レアアース仮説が示すように、希少な地球環境から離れることができないのだろうか。これまでの宇宙・重力生物学研究結果をひもときながら、その答えを探してみたい。

◎講座名：学びピアコンサート

フルーツと弦楽の響宴

あだち 100 年大学講座

日 時：2/24 (土) 午後 2 時～3 時 30 分

対 象：16 歳以上の方

会 場：4 階 講堂

受講料：1,000 円

定 員：190 人 (事前申込先着順)

出 演：新原 輝美 (フルーツ)、神代 恭子
(バイオリン)、井上 八世以 (ビオラ)

吉濱 綾伽 (チェロ)

内 容：フルーツと弦楽の演奏でクラシックからポップス、童謡などをお楽しみいただきます。

お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索
イベント・講座情報→講座予約システム

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の中止、延期の場合もございます。

月例会のご案内

令和 6 年 1 月「月例会」のご案内

1 月 15 日 (月) 午前 10 時～ 学びピア 21
テーマ：生涯学習センター防災訓練

令和 6 年 2 月「月例会」のご案内

2 月 15 日 (木) 午後 3 時～5 時
テーマ：「足立区の文化財」系井史郎氏

* 皆様の積極的な参加をお待ちしています。
(ボランティア活動推進部)

楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
1 月 5 日 (金) 午後 2 時半～4 時 研修室 4
 - ◎ 月例会
1 月 15 日 (月) 午前 9 時～12 時 防災訓練
 - ◎ 学習支援部
1 月 16 日 (火) 午後 1 時～2 時 ワークルーム
 - ◎ ボランティア活動推進部
1 月 12 日 (金) 午後 2 時～4 時 ワークルーム
 - ◎ 事務局
1 月 10 日 (水) 午後 2 時～4 時 事務局部会
 - ◎ 広報グループ
メール会議
 - ◎ 大学塾講座検討会議
1 月 16 日 (火) 午後 2 時～3 時 研修室 4
 - ◎ 大学塾講座企画会議
1 月 5 日 (金) 午後 1 時半～2 時半 研修室 4
 - ◎ 生涯学習センター 休館日
1 月 15 日 (月) 防災訓練
- ★お問い合わせ & ご意見
- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444



編集後記

脱炭素化社会に向けて 再生可能エネルギーの現状と取り組み②

再生可能エネルギーに今取り組むべき理由としては大きく分けて ① 二酸化炭素を削減できる。地球温暖化問題が深刻な現代において、二酸化炭素排出量の抑制は世界的な課題です。日本は 2025 年までにカーボンニュートラルを実現することを宣言しており、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーに取り組むことはカーボンニュートラルを実現する上で絶対条件となります。② エネルギーの自給率が上がる。再生可能エネルギーは国内で生産することが可能なエネルギーであるため、再生可能エネルギーに取り組むことは国内のエネルギー自給率の向上につながります。

また国内のエネルギー自給率が上がれば、海外から化石燃料を調達する資金も削減することができます。③ 国際競争力の強化が挙げられます。再生可能エネルギーに関連する産業は今や成長が期待される大きな市場であり、世界各国でさまざまな新技術が研究・開発されています。日本でも新技術の研究は進んでおり市場も年々拡大しています。また市場規模が大きくなればなるほど、発電設備の整備は進み、地域の活性化や雇用の創出にも繋がります。すなわちメリットは地球環境保護につながることや、国内生産によってエネルギーの自給率が上がることなどが挙げられます。市場が拡大することによって雇用も生まれ、経済の活性化も見込むことができます。デメリットとしては、エネルギー変換効率がまだ低いものも多く、その効率は火力や原子力発電に遠く及ばないのが現状です。

また安定的供給が難しいことやコストの高さが挙げられ、今後さらなる技術の進化が求められます。
(次号へ続く) (金子勝治)